

2022年4月20日

文京区教育委員会
教育長 加藤裕一 様

日本共産党文京区議会議員団
東京都議会議員 福手 ゆう子
党文京地区青年学生部長 石沢のりゆき

東京都中学校英語スピーキングテスト導入見直しを求める緊急要望

日頃より、教育環境の整備にご尽力を頂き感謝申し上げます。

この間、東京都教育委員会は「小・中・高校での一貫した英語教育を推進」することを掲げ、今年度から「東京都中学校英語スピーキングテスト」を全公立中学校の3年生全員、8万人を対象に実施し、その結果を都立高校入試に活用する計画を示しています。

具体的にはベネッセが実施する英語スピーキングテスト(E S A T-J)の結果を、2023年度入学の都立高入試に加算するものです。ベネッセは提携するフィリピンの組織(学力評価研究機構)においてわずか45日間で採点を行い、1月中旬に結果(スコアレポート)が学校を通じ返却されます。採点は100点満点を6段階で評価(A~F)し、Aで最高20点の換算点が総合点に加えられるものです。スコアレポートにより総合得点は通知されますが、どの設問で何点なのかという採点内容は通知されません。更にベネッセは英語スピーキング講座を各種運営しています。有料のベネッセの事業を利用できる家庭の生徒は有利になりますが、経済格差が都立高入試の可否に直結する事態は許されません。

区議団には区立中学校の保護者から「公平な採点ができるのか」「1月にスピーキングテストの点が加算されると進路指導はどうなるのか」「中3の1月に結果が返却されて学校では教育にどう生かすのか」「(スピーキングテストについて)学校に質問すると内申に響くのが心配で質問もできない」といった声が寄せられています。

また、「都立高校へのスピーキングテスト導入の中止を求める会」(呼びかけ人 大津由紀雄慶応大学名誉教授ら)は「『発音など間違えても気にせず話そう』と指導しているのに『入試だけは別』となると生徒が委縮しコミュニケーションに消極的になってしまう恐れがある」と指摘しています。同会は4月12日に中止を求める署名9392人分を都教育庁へ提出し、会見で「今年受験する中学生や保護者に対して都教委からは説明もなく理解は得られていない」と訴えています。

そこで以下、要望をいたしますのでご検討をお願いいたします。

スピーキングテストの目的について東京都教育委員会は「中学校での学習の成果を測る」ことや「中学校における『スピーキング』指導の充実」(都教委発行「とうきょうの教育」第120号中学校版令和2年7月)をあげています。また、文京区教育長もスピーキングテストに関し「授業の充実・改善に活用することが期待でき、生徒の英語力向上に資するもの」(2021年9月9日の本会議における日本共産党文京区議団 関川区議質問)と答弁しています。中学校における英語教育の一環であることは明らかであり、区民の疑問に真摯に答える必要があります。以下、要望いたします。

【要望事項】

1. 区立中学に在籍する中学生と保護者に「東京都中学校英語スピーキングテスト」の実施目的や採点基準、文京区教育委員会としての活用方針を文書配布により明示すること。
2. 文京区教育委員会として全ての中学校単位で、スピーキングテストの活用について説明会を開くこと。
3. 東京都教育委員会に「東京都中学校英語スピーキングテスト」の実施を見直し、都立高校の入試において合否判定に使用しないよう要請すること。

以上